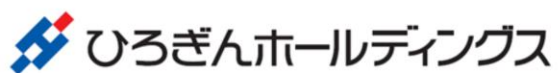


2026年度第1四半期決算の概要

－ 会社説明会資料 －

2026年8月20日

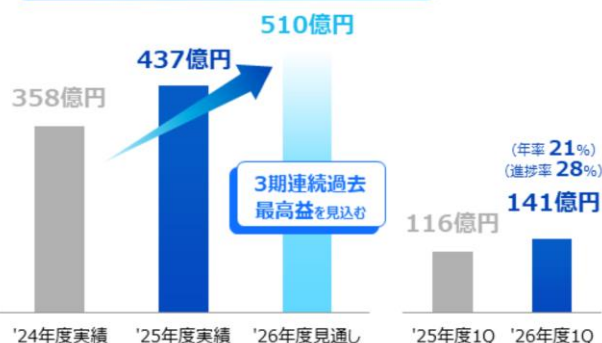


第1四半期決算のポイント

親会社株主に
帰属する
四半期純利益

141億円
(年率 21%、進捗率 28%)

親会社株主に帰属する当期純利益



✓ 注力分野の取組みが着実に進展

- 注力分野である「地域開発ビジネス」、「法人ソリューション」、「船舶ファイナンス」の取組みが順調に推移

✓ 事業性貸出が大きく伸長

- 収益性の高い「船舶ファイナンス」を中心に、事業性貸出が大きく伸長し、資金利益の伸びを牽引

事業性貸出

年率 **+11.0%**
('25/6末 → '26/6末)

うち 船舶ファイナンス
(外航船のみ)

年率 **+16.6%**
('25/6末 → '26/6末)

✓ 預金も堅調に推移

- 貸出金の伸びを支える預金についても、個人預金・法人預金ともに年率は堅調に推移

預金

年率 **+1.8%**
('25/6末 → '26/6末)

HIROGIN HOLDINGS | 2026年度第1四半期決算の概要 - 会社説明会資料 -

2

- 本日のポイント。
- 2026年度第1四半期の「親会社株主に帰属する四半期純利益」は、前年同期比+21%の増加となり、141億円を計上。
- 2026年度の「親会社株主に帰属する当期純利益」は、3年連続の過去最高益となる510億円を見込んでおり、この第1四半期の進捗率は28%と順調な滑り出し。
- 注力分野である「地域開発ビジネス」、「法人ソリューション」、「船舶ファイナンス」の取組みは順調に推移。
- 特に、「船舶ファイナンス」を中心とした事業性貸出が計画以上に伸びており、未残ベースで年率11.0%を計上。資金利益の伸びを牽引。
- 貸出金の伸びを支える預金についても、個人預金・法人預金ともに堅調に伸びており、年率1.8%を計上。

目次

I. 2026年度第1四半期決算の概要	… p.4
II. 2026年度の業績予想	… p.12
III. 企業価値向上に向けて	… p.14
Appendix – 「中期計画2024」の経営目標 –	… p.26

I . 2026年度第1四半期決算の概要

2026年度第1四半期決算の概要

ひろぎんHD 連結業績サマリー

(億円)

	2026年度 第1四半期	前年 同期比	(増減率)	進捗率
連結粗利益	359	45	(14.4%)	
(除く国債等債券関係損益)	381	63		
資金利益	294	51		
役員取引等利益	66	6		
特定取引・その他業務利益	△ 2	△ 12		
(うち国債等債券関係損益)	△ 22	△ 18		
営業経費 (△)	177	10		
与信費用 (△)	△ 4	9		
株式等関係損益	16	11		
持分法による投資損益	0	0		
その他	0	0		
経常利益	203	37	(22.5%)	27%
特別損益	△ 0	1		
法人税等合計 (△)	62	14		
非支配株主に帰属する四半期純利益 (△)	△ 0	0		
親会社株主に帰属する四半期純利益	141	25	(21.1%)	28%
(参考) 営業経費率 ※	46.5%	△ 6.1%		

※ 営業経費率 = 営業経費 ÷ (連結粗利益 - 国債等債券関係損益)

広島銀行 業績サマリー

(億円)

	2026年度 第1四半期	前年 同期比	(増減率)
コア業務粗利益	347	60	(20.7%)
資金利益	297	53	
非資金利益	49	6	
法人ソリューション	15	5	
アセットマネジメント	9	1	
個人ローン関連収益	7	△ 1	
その他 (内国為替、外国為替等)	18	1	
経費 (除く臨時処理分) (△)	157	12	
コア業務純益	190	48	(33.4%)
コア業務純益 (除く投価調整損益)	190	48	(33.4%)
国債等債券関係損益	△ 22	△ 18	
実質業務純益	167	29	(21.0%)
与信費用 (△)	△ 5	9	
株式等関係損益	16	11	
その他臨時損益	2	1	
経常利益	191	32	(20.3%)
特別損益	△ 0	1	
法人税等合計 (△)	57	12	
四半期純利益	133	21	(18.7%)

主要グループ会社の実績 - 広島銀行以外 -

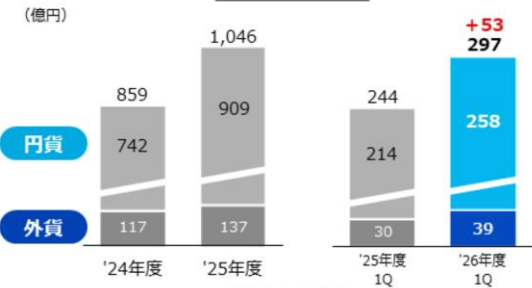
金融連結子会社 非金融連結子会社

ひろぎん証券			ひろぎんリース			しまなみ債権回収			ひろぎんキャピタルパートナーズ			ひろぎんクレジットサービス		
(百万円)	2026年度 第1四半期	前年同期比	(百万円)	2026年度 第1四半期	前年同期比	(百万円)	2026年度 第1四半期	前年同期比	(百万円)	2026年度 第1四半期	前年同期比	(百万円)	2026年度 第1四半期	前年同期比
業務粗利益	1,639	462	業務粗利益	840	28	業務粗利益	204	94	業務粗利益	110	47	業務粗利益	934	△ 110
経常利益	588	396	経常利益	481	56	経常利益	84	111	経常利益	46	27	経常利益	460	△ 38
四半期純利益	394	262	四半期純利益	324	32	四半期純利益	58	77	四半期純利益	31	18	四半期純利益	297	△ 30
(百万円)	2026年度 計画	前年比	(百万円)	2026年度 計画	前年比	(百万円)	2026年度 計画	前年比	(百万円)	2026年度 計画	前年比	(百万円)	2026年度 計画	前年比
当期純利益	940	△ 234	当期純利益	1,050	49	当期純利益	250	50	当期純利益	115	379	当期純利益	1,308	△ 30

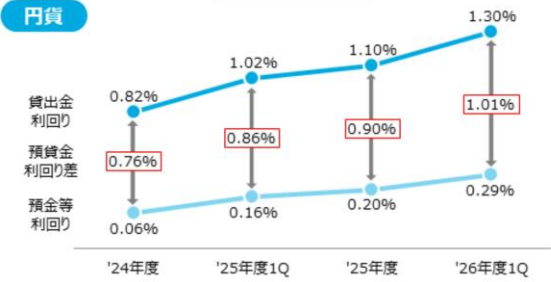
ひろぎんライフパートナーズ			ひろぎんヒューマンリソース			ひろぎんエリアデザイン			ひろぎんITソリューションズ			グループ会社当期純利益※		
(百万円)	2026年度 第1四半期	前年同期比	(百万円)	2026年度 第1四半期	前年同期比	(百万円)	2026年度 第1四半期	前年同期比	(百万円)	2026年度 第1四半期	前年同期比	(百万円)	2026年度 第1四半期	前年同期比
業務粗利益	24	17	業務粗利益	112	45	業務粗利益	10	4	業務粗利益	159	△ 15	グループ会社 四半期純利益	1,073	358
経常利益	5	12	経常利益	18	26	経常利益	△ 97	△ 14	経常利益	△ 79	△ 28			
四半期純利益	3	8	四半期純利益	12	18	四半期純利益	△ 97	△ 14	四半期純利益	△ 57	△ 22			
(百万円)	2026年度 計画	前年比	(百万円)	2026年度 計画	前年比	(百万円)	2026年度 計画	前年比	(百万円)	2026年度 計画	前年比	(百万円)	2026年度 計画	前年比
当期純利益	30	32	当期純利益	11	△ 22	当期純利益	60	△ 17	当期純利益	150	77	グループ会社 当期純利益	3,956	210

※ 銀行を除く連結子会社等の当期(四半期)純利益に
出資比率を乗じた額の合計

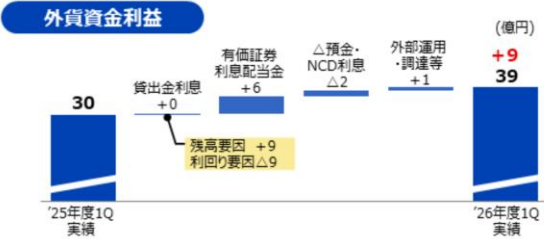
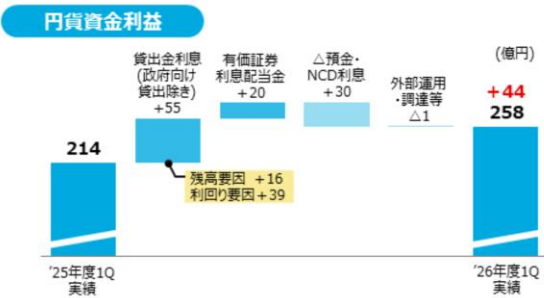
資金利益



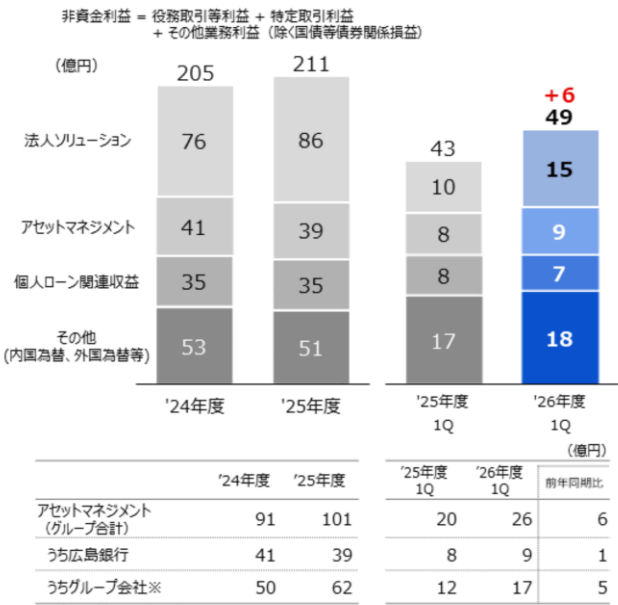
預貸金利回り



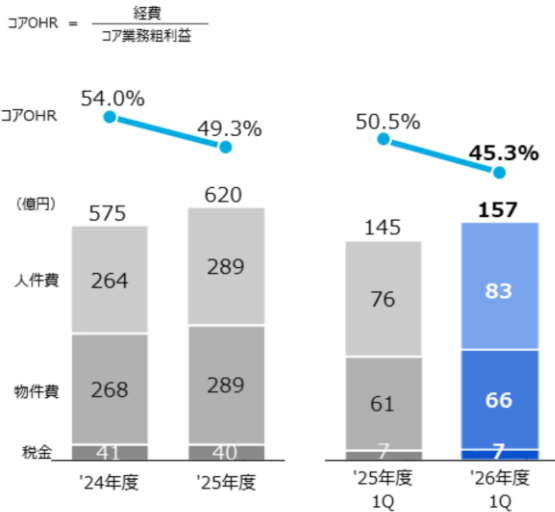
資金利益の増減要因



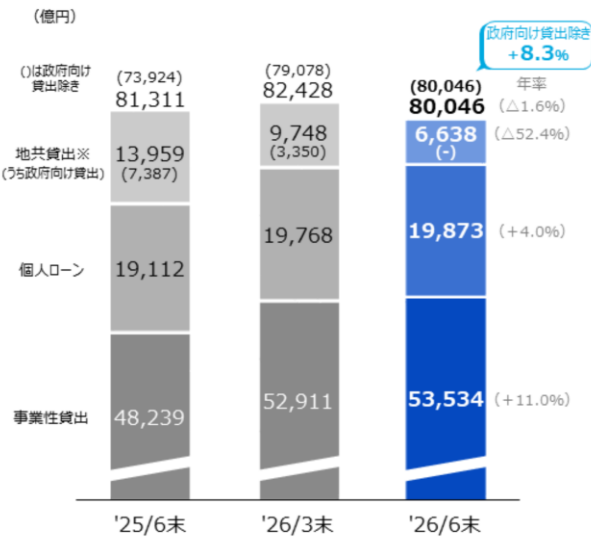
非資金利益



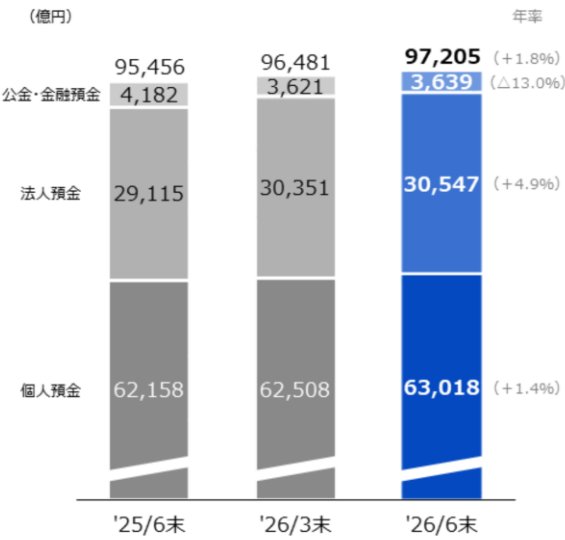
経費 (除く臨時処理分) ・ コアOHR



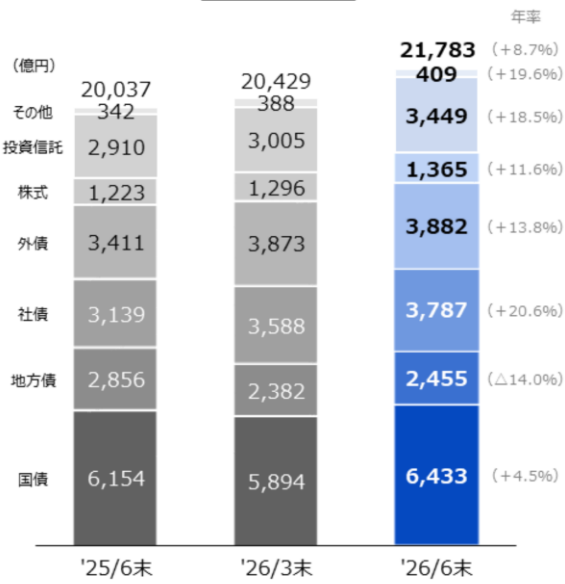
貸出金（末残）



預金等（末残）



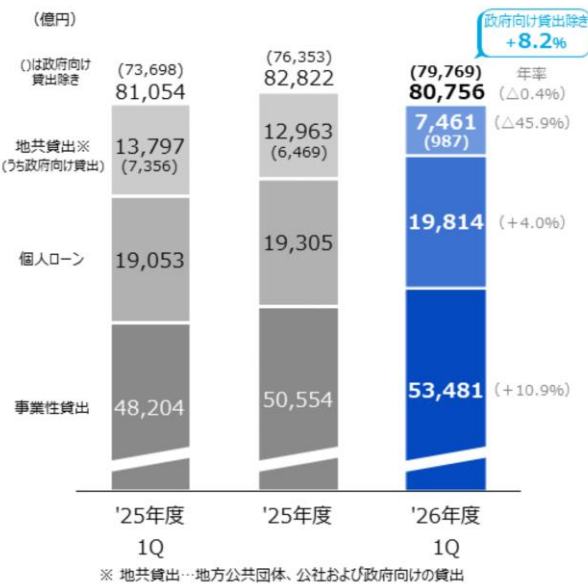
有価証券（末残）



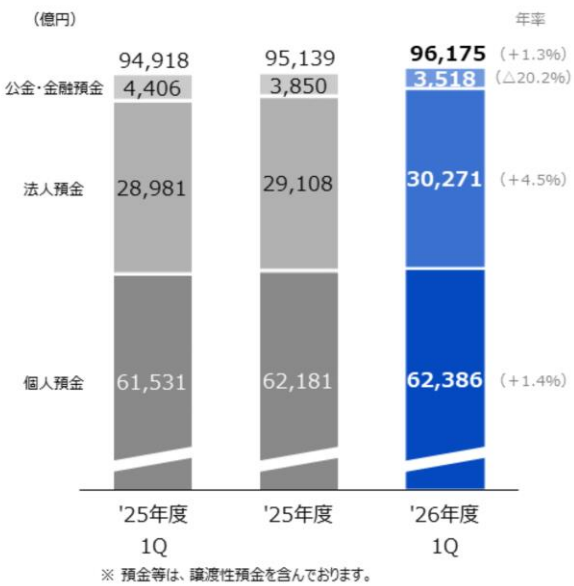
有価証券評価損益

	(億円)	
	'26/6末	'26/3末比
満期保有目的	△ 75	△ 7
その他有価証券 ※	283	411
株式	749	93
債券	△ 1,349	△ 67
国債	△ 891	△ 60
地方債	△ 147	8
社債	△ 309	△ 14
その他	882	384
うち外債	△ 78	△ 11
うち投資信託	961	395
合 計	207	404
※ヘッジ考慮後の評価損益		
その他有価証券(ヘッジ考慮前)	283	411
金利スワップ	564	71
その他有価証券(ヘッジ考慮後)	847	483

貸出金（平残）



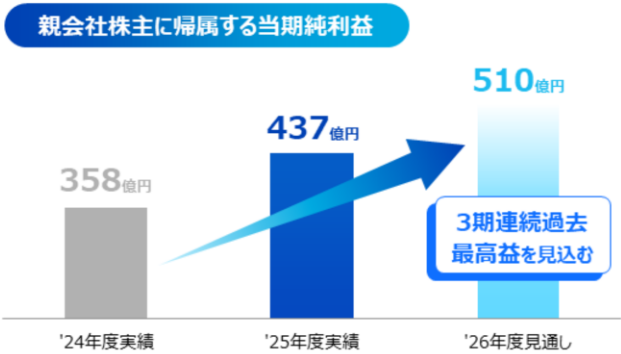
預金等（平残）



Ⅱ. 2026年度の業績予想

2026年度の業績予想

▶ 2026年度の親会社株主に帰属する当期純利益は、3年連続の過去最高益となる510億円を見込む。（年初公表値から変更なし）



業績予想の前提となるマーケットシナリオ

円 貨 金 利：（短期）日銀政策金利	1.25%※	（長期）10年国債金利	2.30%
外 貨 金 利：（短期）FF金利	3.50%※	（長期）米10年国債金利	4.30%
為替（ドル／円）：	150円		
日 経 平 均 株 価：	55,000円		
※2027年3月末時点			

【HD連結】 (億円)

	中間期業績予想	2026年度業績予想	前年比
経常利益	345	745	125
親会社株主に帰属する当期純利益	235	510	73
連結ROE		8.7%	0.5%

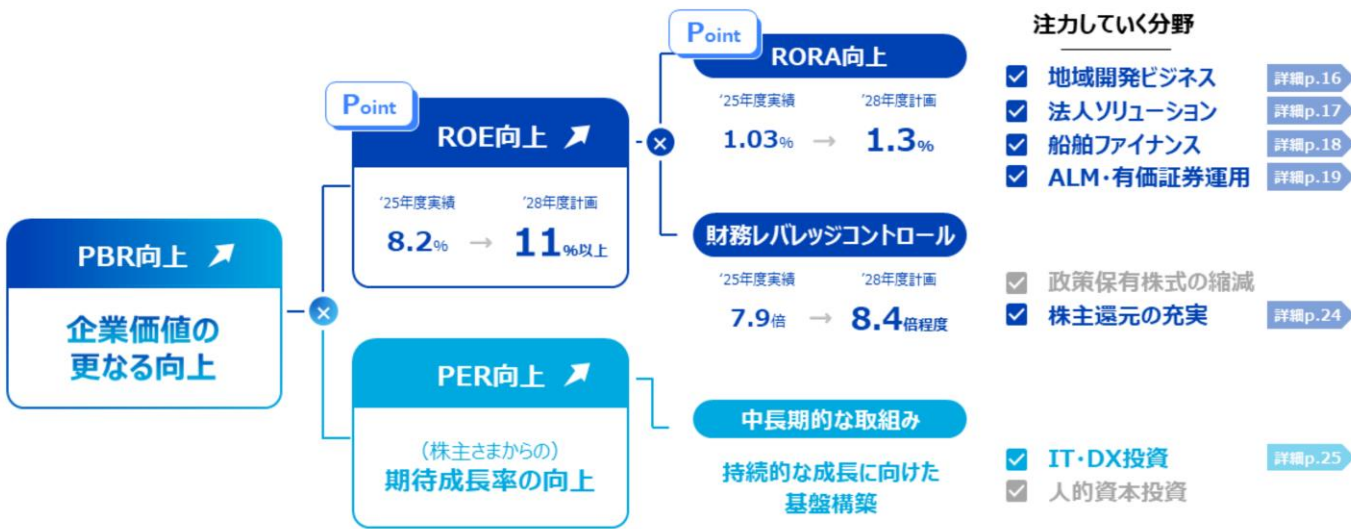
(参考) 広島銀行の2026年度の個別業績予想 (億円)

	中間期業績予想	2026年度業績予想	前年比
資金利益		1,185	139
非資金利益		215	4
コア業務粗利益		1,400	143
経費 (△)		665	45
コア業務純益		735	98
うち有価証券関係損益		15	64
うち与信費用 (△)		70	43
経常利益	320	685	116
当期純利益	220	475	72

Ⅲ．企業価値向上に向けて

企業価値向上に向けて

▶ 企業価値の向上に向けて、ROE、RORAの向上に注力していく。



(注) RORA：総会社株主に帰属する当期純利益÷リスクアセット

HIROGIN HOLDINGS | 2026年度第1四半期決算の概要 - 会社説明会資料 -

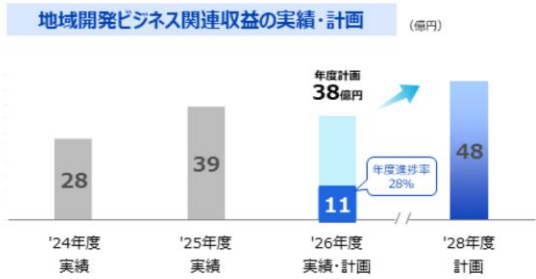
15

- PBR（＝企業価値）の向上に向けて、ROEを11%以上に引き上げていく。
- そのために、RORA向上、財務レバレッジコントロールの取組みを強化。
- また、（株主さまからの）期待成長率の向上を図るべく、IT・DX投資などの成長投資を強化。

▶ 2026年4月に不動産私募ファンドの組成・運用に関する投資助言会社「ひろぎんリージョナルアドバイザーズ」を設立し、ストック収益に加えフロー収益の拡大を推進。

計数実績

第1四半期の状況



ポイント 第1四半期のハイライト・今後の展望

- ✓ 2026年4月に、不動産私募ファンドの組成・運用に関する投資助言を担う「ひろぎんリージョナルアドバイザーズ」を新設
- ✓ 従来のファイナンスによるストック収益に加え、案件の組成から開発後の運営まで一貫して関与することで、各フェーズにおける手数料等のフロー収益にも注力
- ✓ ヒルトン（廿日市市・宮島口）やバンヤンツリー（呉市・音戸の瀬戸）等の外資系ホテルの進出支援案件が順調に進捗

トピックス Umiuta Hiroshima, LXR Hotels & Resortsの起工式を開催

- 2026年7月、当社保養所跡地に建設を予定しているUmiuta Hiroshima, LXR Hotels & Resortsの起工式を開催
- 2028年の開業に向けて、2026年8月より着工



外観イメージ



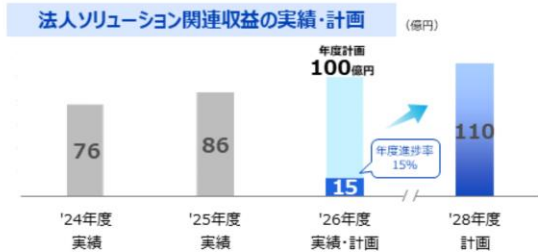
起工式

- ▶ 1つ目の注力分野である地域開発ビジネスについて。
- ▶ 地域開発ビジネス関連収益は、年度計画38億円に対して、第1四半期実績は11億円。進捗率28%と順調な滑り出し。
- ▶ 今年4月には不動産流動化ニーズに対応するための私募ファンドのアセットマネジメント会社として「ひろぎんリージョナルアドバイザーズ」を設立。これで地域開発プロジェクトを川上段階から川下段階で一気通貫で支援できる体制を整備。
- ▶ 同じく今年4月にひろぎんHD内に新設した「地域開発ビジネス統括グループ」を中心に、地域開発プロジェクトの構想段階から入り込んで、単なる不動産ファイナンスに留まらず、コンサルティングフィーなどの役務収益獲得にも注力していく。
- ▶ なお、今年7月には、廿日市市・宮島口の当社保養所地跡地に建設を予定しているヒルトン最高級ホテルブランド「LXR宮島」の起工式を開催。2028年の開業に向けて、今月より着工。
- ▶ 呉市・音戸の瀬戸公園など、他にも複数の地域開発プロジェクトが進行しており、今後拡大が見込まれる再開発案件関連の収益機会を着実に取り込んでいく。

▶ RM (Relationship Management) 機能のさらなる深化を図るべく、自動車RMの知見を活用した製造業RMを創設し、地元製造業への支援を強化。

計数実績

第1四半期の状況



ポイント 第1四半期のハイライト・今後の展望

- ✓ 地元企業を中心とした事業承継等への支援に加え、地域の枠を超えた成長型M&A案件の取込みを強化
- ✓ 従来、本部のみで利用していたM&A案件専用の管理クラウドを支店にも展開し、案件情報の一元管理を進めることで、案件発掘力を強化
- ✓ 法人ソリューション分野へ重点的に人員を配置しているなか、M&Aラインにおいて経験年数3年未満の人員が約75%を占めていることを踏まえ、人材育成を強化

トピックス 製造業RM (Relationship Management) の創設

- 自動車RMで蓄積したノウハウとネットワークを活用し、地元製造業支援を強化すべく製造業RMを創設



自動車RM

- 2001年に設立
- 自動車関連企業出身を受入
- 地元サプライチェーンの強靱化に向けた取組みおよび県内自動車産業発展への貢献がミッション

製造業RM

- 自動車RMで蓄積したノウハウ (事業性評価) を活用
- 県内大手製造業や外部専門家等と連携した経営改善支援、グループ機能を活用したソリューション提供によって地元製造業の成長と再生に貢献

事業性評価の源流

製造業領域に特化したコンサルティング提供

- 2つ目の注力分野である法人ソリューションについて。
- 法人ソリューション関連収益は、年度計画100億円に対して、第1四半期実績は15億円。前年同期比+46%の増益となっているものの、計画進捗率は15%に留まっており、今後挽回していく。
- 他方で、「補助金支援コンサルティング」は、件数・収益額ともに着実に伸長。大規模成長投資補助金の累計採択件数18件は地銀最多であり、今年度も力を入れていく。
- 法人ソリューションの中核である「事業承継・M&A」にも一層注力していく。従来からの「事業承継型」M&Aに加え、「成長型」M&Aのニーズも高まりつつあり、人員を増強中。今後は、より大型の案件獲得と買いニーズの取込み強化による案件成約率の向上を通じて、収益性を高めていく。
- また、従来本部のみで利用していたM&A案件専用の管理クラウドを支店にも展開しており、案件発掘力を強化。
- 他方で、課題は人材育成。配置人員を増加するなかで、経験年数3年未満である人員が約75%であるため、外部出向等により本部初任者の“早期戦力化”を進めていく。
- 加えて、自動車RMで蓄積したノウハウを、自動車以外の製造業支援に横展開するため、「製造業RM」を新設。県内大手メーカーと連携して、地元製造業の経営改善支援に取り組んでいく。

▶ 「船舶ファイナンス」の実行額は堅調に推移しており、当社グループの収益力向上を牽引。

計数実績

船舶関連収益の実績・計画

(億円)



船舶関連の事業性貸出残高の実績・計画

(末残、億円)



第1四半期の状況

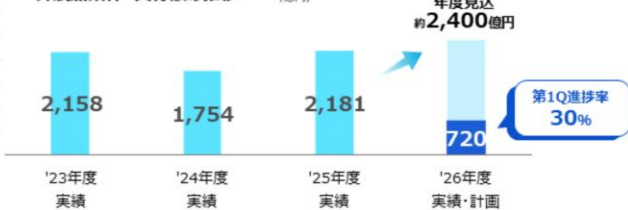
ポイント 第1四半期のハイライト・今後の展望

- ✓ 新規案件・リプレイス案件の積上げにより船舶関連の事業性貸出残高が着実に伸長
- ✓ HIROGIN GLOBAL CONSULTING（シンガポール現地法人）との連携も含めたストラクチャードファイナンスへの対応を強化
- ✓ 造船再生に向け今後見込まれる資金需要への対応を強化

トピックス 外航船案件の順調な実行残高の積上げ

外航船案件 実行額の推移

(億円)



- 3つ目の注力分野である船舶ファイナンスについて。
- 船舶関連収益は、年度計画155億円に対して、第1四半期実績は37億円。進捗率は24%となっているが、船舶関連収益は貸出残高の伸びと連動して年度後半に伸びるため、好調な滑り出しと評価。
- 特に、外航船向けの事業性貸出残高が、計画以上の伸び（末残ベースで年率＋16.6%の増加）を見せており、資金収益の伸びを牽引。
- 今後も、新規案件・リプレイス案件の活況な資金需要を追い風に、着実に貸出残高を積上げていく。
- 加えて、2024年に設立したシンガポール現法「HIROGIN GLOBAL CONSULTING」と連携し、船舶ファイナンスにおけるストラクチャードファイナンスへの対応も強化していく。

バランスシート運営 - ALM -

▶ 収益性の高い資産へのシフトを進めるとともに、持続的な収益成長に向けた預金獲得や調達手段の多様化を推進。

貸出金

1 収益性の高い「船舶ファイナンス」を中心に事業性貸出の需要が旺盛で、高い年率を計上

2 収益性の低い「政府向け貸出」の残高を2026年5月末までにゼロにするなど、収益性の高い貸出金へのシフトを進め、アセット効率を改善

(億円)

	'26/6末	年率
事業性貸出	53,534	1 +11.0%
うち、船舶ファイナンス (外航船のみ)	10,488	+16.6%
個人ローン	19,873	+4.0%
うち、住宅ローン	13,719	+6.1%
地共貸出	6,638	▲52.4%
うち、政府向け貸出	-	▲100.0%
全体	80,046	▲1.6%

政府向け貸出除きの貸出金年率 +8.3%

有価証券

□ 残高2兆円程度を維持しつつ、高い資金利益を安定確保できる有価証券ポートフォリオへ入替え

広島銀行のバランスシート ('26/6末時点)

運用

貸出金
8.0兆円 (▲0.1兆円)

有価証券
2.2兆円 (+0.2兆円)

その他資産
1.8兆円 (▲0.3兆円)

調達

() 内は、'25/6末比

預金等
9.7兆円 (+0.2兆円)

その他調達
1.7兆円 (▲0.5兆円)

純資産
0.6兆円 (+0.1兆円)

預金

3 個人預金・法人預金ともに、過度な金利キャンペーンを実施せず、預金コストを抑制しながら、堅調に預金を獲得

(億円)

	'26/6末	年率
個人預金	63,018	3 +1.4%
法人預金	30,547	+4.9%
公金・金融預金	3,639	▲13.0%
全体	97,205	+1.8%

	'25年度1Q	'26年度1Q
円貨預金利回り	0.16%	0.29%
(参考) 政策金利	0.50%	0.75%

その他調達

□ 収益性の高い貸出金の堅調な伸びを支えるため、多様な調達手段を検討

コール・CP

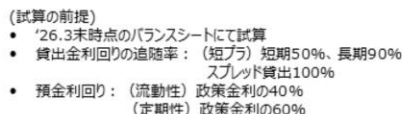
社債

HIROGIN HOLDINGS | 2026年度第1四半期決算の概要 - 会社説明会資料 -

19

- ▶ 広島銀行のバランスシートについて。
- ▶ 「金利のある世界」への移行に伴う預金獲得競争の激化に伴い、ALMを従来以上に強化。
- ▶ 運用サイドでは、収益性の高い「船舶ファイナンス」を中心に事業性貸出残高を大きく伸ばした一方で、収益性の低い「政府向け貸出」の残高を今年5月末までにゼロにするなど、貸出金ポートフォリオのアセット効率を改善。
- ▶ 有価証券の残高は、現中計期間内は残高2兆円程度を維持予定。
- ▶ 調達サイドは、個人預金・法人預金ともに、過度な金利キャンペーンを実施せず、預金利回りを適切にコントロールしながら、堅調に預金残高を積み上げ。
- ▶ 今後、預貸ギャップを勘案し、預金獲得に注力するのはもちろんのこと、コールやCP（コマーシャルペーパー）、社債など、調達手段の多様化に向けた検討・対応を進めていく。

▶ 当社の想定する政策金利シナリオを上回るペースで利上げが進んだ場合、親会社株主に帰属する当期純利益への影響は約20億円の増益を見込む。

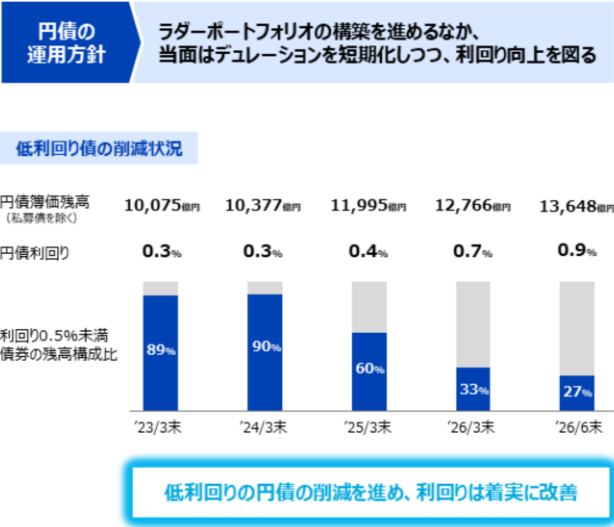


- 現中計の政策金利シナリオは記載の通り。
- 次回の政策金利引上げが今年10月に早まった場合、親会社株主に帰属する当期純利益への影響は約20億円の増益効果を見込む。

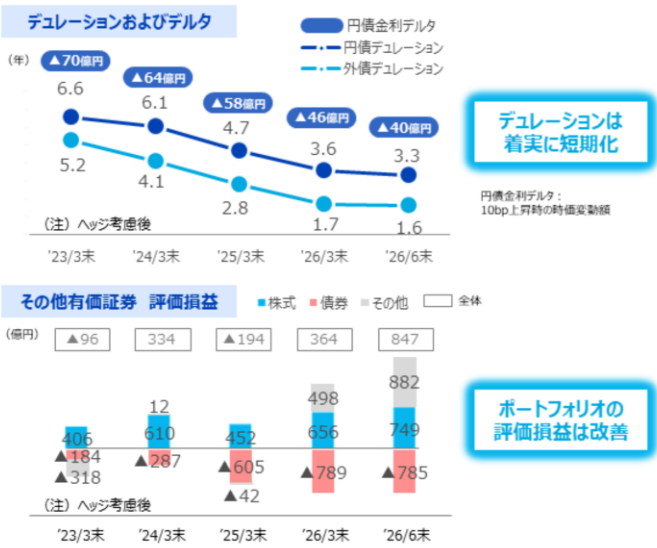
バランスシート運営 - 有価証券 -

- ▶ 円債について、金利リスクを抑制しながら低利回り債の削減を進めた結果、利回りは着実に改善。
- ▶ 引続き、高い資金利益を安定的・継続的に確保できる有価証券ポートフォリオを構築していく。

円債の運用状況



有価証券ポートフォリオの状況

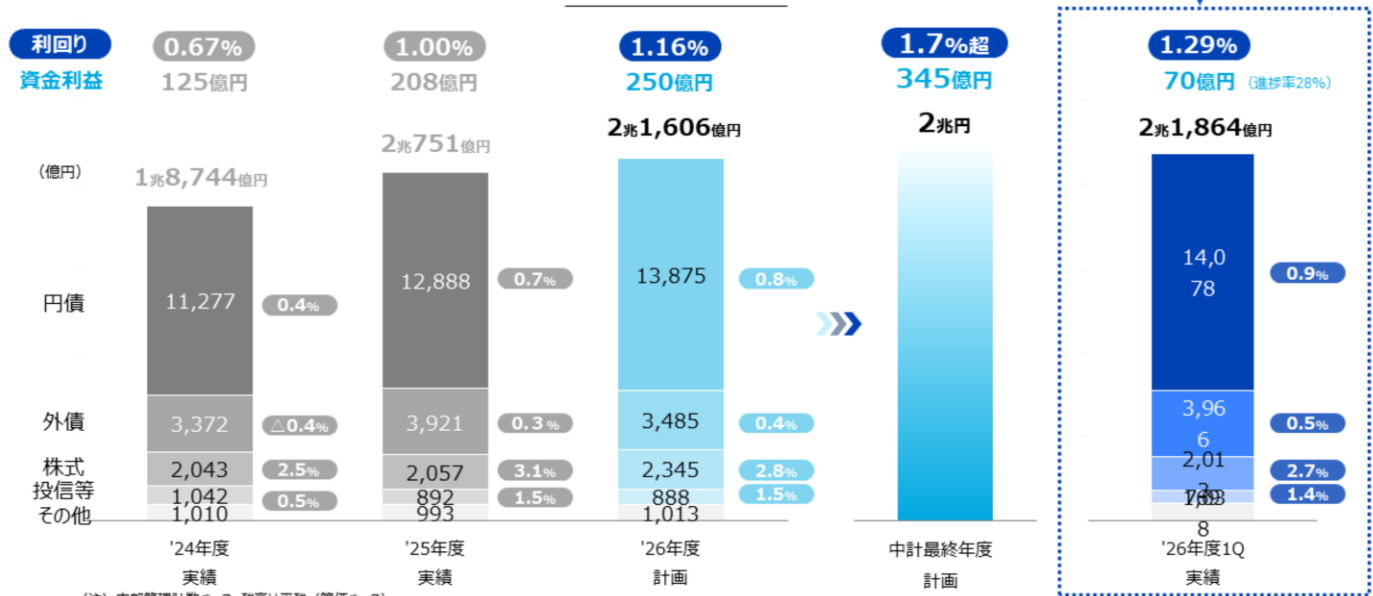


- ▶ 有価証券運用について。
- ▶ 円債については、金利上昇を踏まえた変動債（国債アセットスワップ）への投資等によりデュレーションを抑制しつつ、低利回り債の削減を進めた結果、利回りは着実に改善。
- ▶ 有価証券ポートフォリオ全体の評価損益も改善しており、引続き、高い資金利益を安定的・継続的に確保できる有価証券ポートフォリオの構築を進めていく。

バランスシート運営 - 有価証券 -

▶ '26年度1Qは順調に進捗し、有価証券ポートフォリオの収益力は着実に改善。

有価証券ポートフォリオの状況



- 2026年度第1四半期の進捗は順調。
- 2028年度(中計最終年度)に向けて、資金利益345億円、利回り1.7%超のポートフォリオ構築を目指していく。

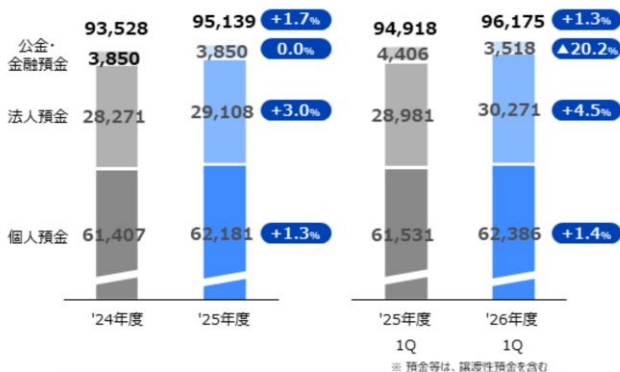
バランスシート運営 - 預金 -

- ▶ 金利上昇による過度な金利競争に踏み込むことなく、預金コストの上昇を適切に抑制する中、預金増強を推進。

当社の実績 (億円)

(広島銀行) 預金等残高推移 平残

● は、年率



過度な金利キャンペーンを実施せず
(預金コストを抑制)、順調に預金を獲得

当社の取組み

法人

- ✓ 貸出金シェアに見合った預金シェアの確保
- ✓ 純預金先とのリレーション強化
- ✓ ビジネスポータルを活用した決済機能の囲い込み

個人

- ✓ ひろぎんアプリを活用したお客さまの利便性向上

ひろぎんアプリのダウンロード件数 (累計、万件)



100万件達成!

- ✓ <ひろぎん> ライフコンサルプラザを活用した預金獲得の強化

- 土日に営業する<ひろぎん> ライフコンサルプラザにおいて幅広い商品のご提案 (ローン・保険・資産運用) を通じて、お客さま接点を拡大



HIROGIN HOLDINGS | 2026年度第1四半期決算の概要 - 会社説明会資料 -

23

- 預金獲得について。
- 基本的な考え方として、金利上昇による過度な金利競争に踏み込むことなく、預金コストの上昇を適切に抑制する中、預金増強を推進。
- 法人預金については、貸出金シェアに見合った預金シェアの確保や純預金先とのリレーション強化など、地道な活動を着実に遂行する中、増強を図っている。
- 個人預金については、ひろぎんアプリの累計ダウンロード件数が100万件を突破しており、非対面を通じたマス層の預金獲得を進めている。
- 加えて、ローン・保険・資産運用など、幅広い個人向け商品を提供する<ひろぎん> ライフコンサルプラザなどを通じて、対面での預金獲得にも引き続き注力している。

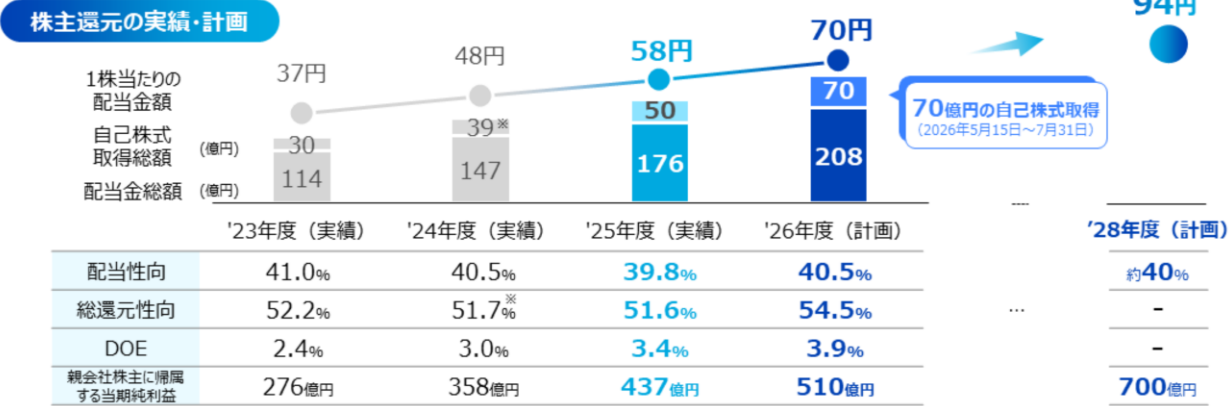
資本政策

- ▶ 配当性向については、40%程度を基本方針とし、2026年度の1株当たりの年間配当額は、前年比12円増配の70円を予定。
- ▶ 自己株式取得については、連結自己資本比率「10%程度」（2026年度ターゲット）を目処とする中、自己資本比率の水準に応じて機動的に運営。

配当性向 利益成長を通じた1株当たり配当金の安定的かつ持続的な増加を基本とし、**配当性向を40%程度とする**

自己株式取得 **財務の健全性を維持**する中、業績動向や市場環境等を総合的に考慮したうえで**機動的に実施**

2026年度 自己資本比率目標 （HD連結・銀行単体）10%程度



※ 取得額50億円のうち100万株は、ひろしま美術館に対する賛助を目的とした第三者割当による自己株式処分を実施しており、実質的な取得額は39億円として算出

（注）DOEは、配当総額÷株主資本（期初・期末平均）にて算出

HIROGIN HOLDINGS | 2026年度第1四半期決算の概要 - 会社説明会資料 -

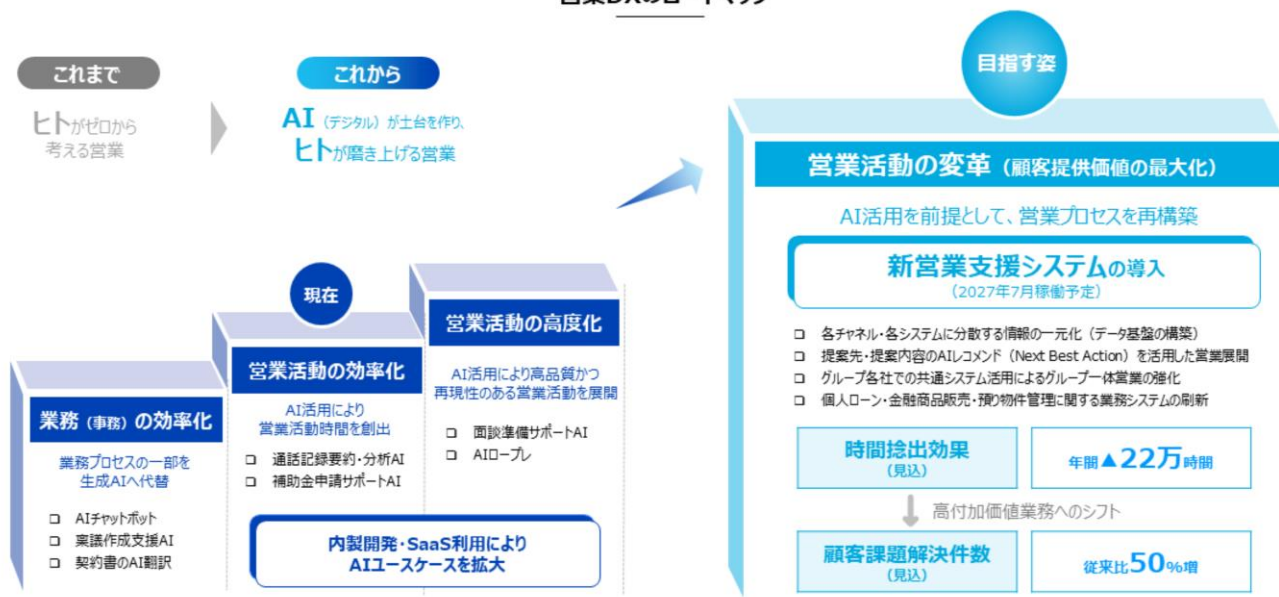
24

- 株主還元方針について。
- 配当性向40%程度を基本方針とするとともに、自己株式取得方針については、HD連結自己資本比率「10%程度」（2026年度ターゲット）を目処とする中、自己資本比率の水準に応じて機動的に実施。
- 当該方針に基づき、2026年度の配当に関しては、配当性向40.5%とし、1株当たりの年間配当金は70円を予定。
- 加えて、70億円の自己株式取得を5月から7月にかけて実施済み。
- なお、中計期間中の1株当たりの配当金額は、利益水準の向上による増配を図っており、2028年度（中計最終年度）においては、当期純利益700億円の達成により、94円を目指す。

DX・IT投資

▶ 新営業支援システムの導入により、AI活用や分散する顧客情報の一元化を実現し、年間22万時間の業務時間削減を通じて高付加価値業務へのシフトを推進。

営業DXのロードマップ



HIROGIN HOLDINGS | 2026年度第1四半期決算の概要 - 会社説明会資料 -

25

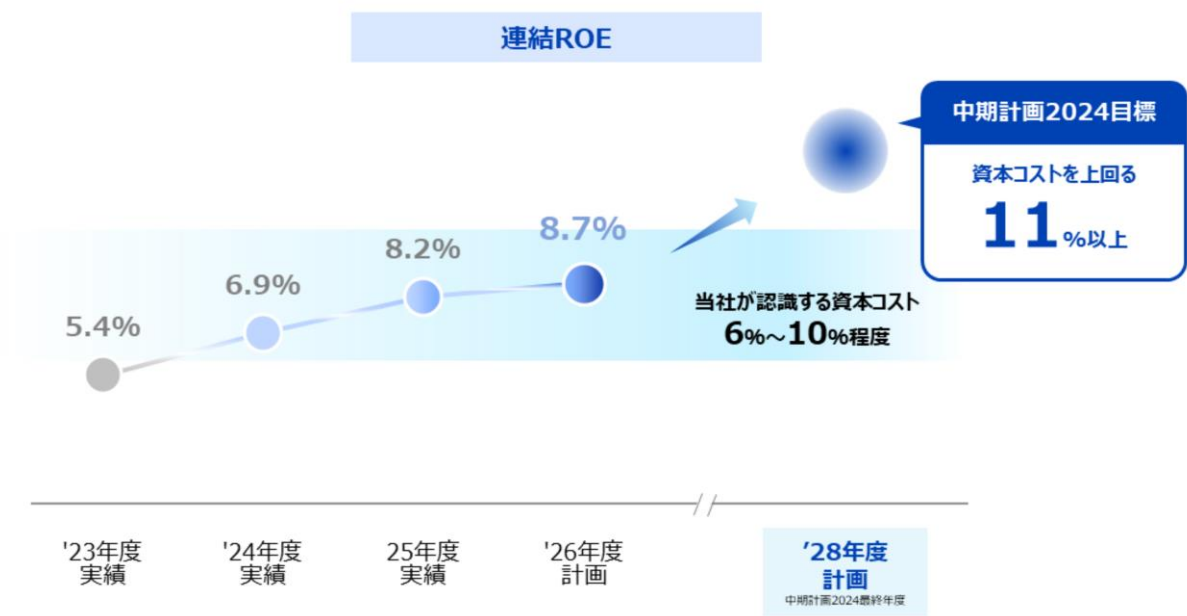
- DX・IT投資について。
- AI活用については、これまでは「業務の効率化」が中心だったが、今後は「営業戦略の高度化」への活用も強化していく。
- 2027年には、新営業支援システムの導入により、AI活用を前提とした営業プロセスの再構築を進める予定。
- これにより、各チャネル・各システムに分散する情報の一元化を進めるとともに、提案先・提案内容のAIレコメンド（Next Best Action）を活用した営業展開を図り、年間22万時間の業務時間削減を通じて高付加価値業務へシフトしていく。

Appendix

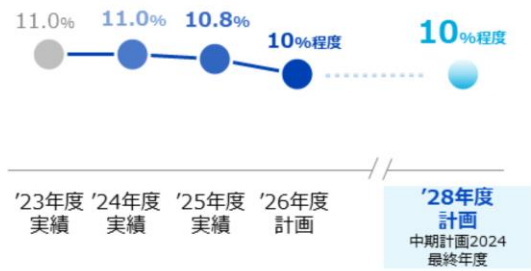
－「中期計画2024」の経営目標－

2028年度目標のこれまでの見直し内容

		中計最終年度（2028年度）目標			
		当初	'25/5 見直し後	'25/11 見直し後	'26/5 見直し後
経営指標	連結ROE	7%以上 →	9.5%以上 →	9.5%以上 →	11%以上
	連結自己資本比率	11%程度 →	11%程度 →	10%程度 →	10%程度
	連結BPS	2,000円以上 →	2,000円以上 →	2,000円以上 →	2,200円以上
目指す利益水準	親会社株主に 帰属する 当期純利益	450億円 →	570億円 →	570億円 →	700億円



連結自己資本比率



連結BPS



地域活性化指標の達成に向けた当社グループの取組み

地域活性化指標

広島県の人口社会増減

減少幅縮小
(2028年)

広島県の観光消費額

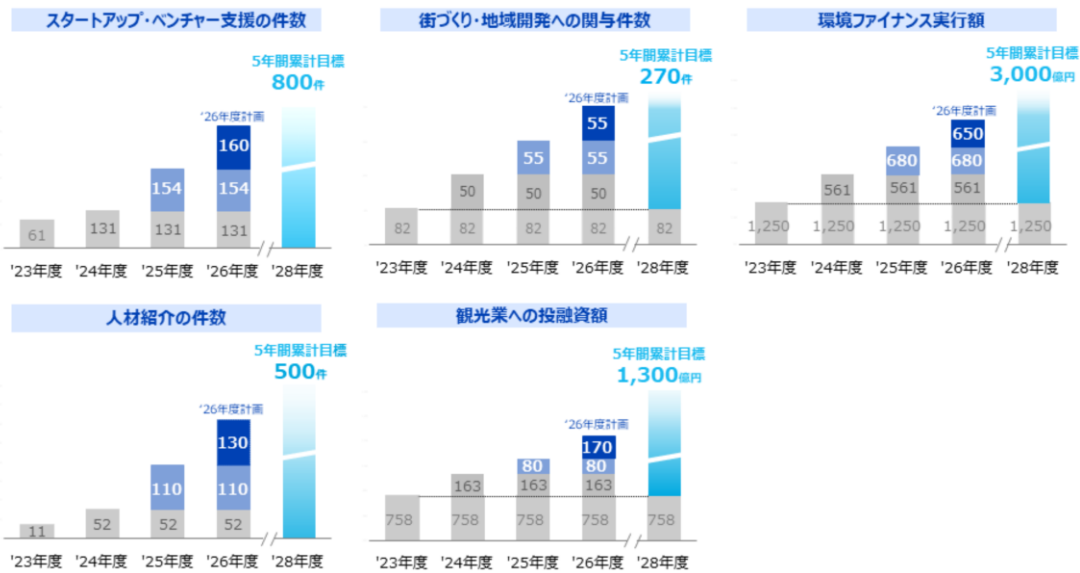
継続的な増加※
(2028年)

広島県の温室効果ガス排出量

継続的な削減
(2028年)



当社グループの取組み



(※) 通過型から周遊型・滞在型観光へシフトすることにより単価を引き上げる

ディスクレーマー

本資料には、株式会社ひろぎんホールディングス（以下「当社という」）およびそのグループ会社（以下「当社グループ」という）に関連する予想、見通し、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述または前提（仮定）は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の決算短信、有価証券報告書、統合報告書をご参照ください。なお、本資料における将来情報に関する記述は、上記のとおり本資料の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。また、本資料に記載されている当社ないし当社グループ以外の企業等にかかわる情報は、当社は、それらの情報を公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

株式会社ひろぎんホールディングス 経営企画グループ

電話：082-245-5151(代表)

URL： <https://www.hirogin-hd.co.jp/>

